

機関評価結果 (R2. 8. 25)

1 運営方針及び重点分野					
評価点数	⑤ 0人	④ 6人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県が策定した中長期政策プランに基づき、工業技術センターの役割を果たす運営方針を定めているとともに、重点化がなされ効率的な活動となっている。 ・ 県政に合致した運営方針がとられている。 ・ 先端技術による地域産業の強化・支援のため、多数の機関との連携を図ると共に、共同研究等も盛んに行われている。 ・ 研究開発／技術相談／依頼試験・設備利用のバランスが取れている。 ・ 運営方針に従い、継続的な事業推進を期待する。 ・ 岡山県の方針に沿って地場産業に関係した分野の研究や企業の相談対応に大きな努力と貢献をしていることは評価できる。 ・ ものづくり産業の人材が不足している現状から、頭脳センターの役割を担っている。 ・ 県政の基本目標「新晴れの国おかやま生き生きプラン」に沿った、地域を支える産業の振興に資する施策・取組が窺える。 					

2 組織体制及び人員配置並びに予算配分					
評価点数	⑤ 1人	④ 3人	③ 1人	② 1人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度に組織体制を改編し、より効率的な活動ができる体制にしたことは工業技術センターの役割を果たすために効果的であったと評価する。 ・ 組織の構成は分かりやすいが、近年重要性を増している情報技術が表面に現れるよう、組織の名称等に工夫が必要である。 ・ 平成29年以降、研究者数が減少しているが、センターとしての業務量は減少していないことから、増員が望ましい。 ・ 民間資金・競争資金を積極的に取り入れている。 ・ 特電補助金の比率が約20%あるが、今後の継続した確保に不安がある。 ・ 工業技術センターは県内ものづくり企業にとって必要不可欠な機関であり、予算に対する岡山県の一層の関与を期待する。 ・ 平成30年の大水害により予算面で厳しくなっているが、中国等、近隣諸国の強力な自国産業支援に対抗するためにも、研究予算の確保・拡充へ一層の努力を期待する。 ・ 限られた資源(ヒト・モノ・カネ)の中で最大限の効果を発揮すべく創意工夫が見られる。 ・ 研究費のうち、民間資金や提案公募型の占める割合が多く、自助努力の跡が窺える。 					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要
 ① 全面的見直しが必要

3 施設・設備等					
評価点数	⑤ 1人	④ 3人	③ 2人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年着実に機器の整備を進めており、工業技術センターの価値を上げている。 ・ 設備が充実するにつれ大きくなる維持費等に対する対策を検討してほしい。 ・ 機器の整備台数については充実している。 ・ 特別電源予算への依存度が高く、将来的に何らかの対策が必要である。 ・ 外部資金による設備取得が多くなっている。 ・ 特電補助金の効果もあり保有設備は優れた物が多い。 ・ 最先端の技術保有施設であるべきと思うので、予算面での県の関与を期待する。 ・ 機器の充実と企業の利用推進を評価する。 ・ 最新設備整備が役立っており、地域企業からの利用が多い。 ・ 施設・設備のメンテナンスは妥当である。 					

4 研究成果					
評価点数	⑤ 1人	④ 5人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特許出願などアウトプットの数字はリソースから見て十分であり、特許実施許諾件数や実用化された技術から質の高い研究成果が得られていると評価できる。 ・ 多くの共同研究が実施されており、特許出願・特許実施許諾も多い。 ・ 特定企業との共同研究で優れた実績をあげているだけでなく、複数企業のネットワークによる成果もある。 ・ 共同研究の実用化が顕著に増加している。特許許諾件数、実施化率ともに高い。 ・ 研究成果は、工業技術センター職員の努力によるものが大きい、優れた施設・設備にも支えられている結果でもある。 ・ 特許実用化や各種の受賞を評価する。 ・ 企業との密接な関係を持ちながらも独自研究を進めている。 ・ 共同研究実績として実用化件数が増加しており、一定の成果がみられる。 					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要
① 全面的見直しが必要

5 技術相談・指導、普及業務、設備使用、依頼試験、情報提供等の実施状況					
評価点数	⑤ 3人	④ 3人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・設備がすぐれている分、設備利用や技術相談・指導も増加しているが、十分に機能していると評価できる。 ・依頼試験・設備利用、技術相談の件数が非常に多く、技術移転も増加している。 ・平成30年の豪雨の際の技術相談にも適切に対応している。 ・技術相談・指導に関して、7,000件/年程度の実績は、工業技術センターの有効性の証明であり、継続した対応を期待する。 ・地域企業との連携・技術相談・指導件数が多く、ものづくり企業から多数の相談に応じている。 ・設備利用件数や技術移転は増加傾向にあり、活動の成果がみられる。 					

6 人材育成					
評価点数	⑤ 1人	④ 5人	③ 0人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックなネットワークを構築する上でも博士号取得を奨励する点は評価できる。情報系の人材が充実されていくことを期待する。 ・年齢に応じたステージが用意されている。 ・高い博士号取得者率と学会での受賞の増加から、優秀な研究者が育っていることを評価する。 ・博士号取得者の割合が高く、論文賞の授与など、基礎力も外部から評価されている。 ・工業技術センターの業務の目的は、企業の支援であると明示されており、中長期に渡る育成プログラムが実施されており、その結果として、博士号の取得や外部機関から多くの表彰(22件/3年)は、評価できる。 ・他県の工技センターと比較しても博士号取得者が多いことは評価できる。 ・大学や他の研究機関との連携・派遣も良い試みと評価できる。 ・キャリアアップの為に年代別育成プログラムが確立できている点を評価する。 ・博士号取得率が高く、表彰件数も増加傾向にあり、人材育成プログラムが十分に機能している。 					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要
① 全面的見直しが必要

7 他機関との連携					
評価点数	⑤ 1人	④ 3人	③ 2人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な試験研究機関および大学と連携し、幅広いネットワークを構築し、相手機関との関係構築に十分に活用されている。 ・他の研究機関や大学との連携、講師・審査員派遣、委員会等の支援など、継続的に他機関と連携している。 ・審査員や委員会への参加が多い。 ・他団体との研究、開発件数および支援実施件数は評価できる。 ・県内・県外、大学、国との連携がなされ、博士号取得者も多数育成している。 ・講師派遣・審査員派遣、委員会等への支援は、いずれも増加傾向にある。 					

8 県民・地域への貢献					
評価点数	⑤ 2人	④ 3人	③ 1人	② 0人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開から技術講習会まで、様々なメニューを取り揃え、それぞれに十分な効果を上げていると認められる。 ・研究発表会、出前講座、技術講習会、刊行物、メールマガジンなど、多種多様な方法で積極的に情報発信が行われている。 ・子ども向け一般公開は、理系離れの抑止につながる重要な取組として評価できる。 ・食品・醸造・ジーンズ（インディゴ染め）など県特産品の支援に力を入れている。 ・県民、民間企業に対する貢献を考えた活動が図られている事は評価できる。 ・具体的な相談と、工技センターの最新分析機器の扱い方の指導と企業利用が大変多く、大きく貢献できている。 ・県が誇る地場産業（ジーンズや酒造）や、金属加工・製品分野への支援を評価する。 ・一層の情報発信が望まれる。 					

9 前回指摘事項への対応					
評価点数	⑤ 0人	④ 3人	③ 2人	② 1人	① 0人
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの指摘に対して真摯に対応していることを評価する。 ・前回指摘事項の3項目について、適切な対応がとられている。 ・博士号取得者など継続して維持すべき項目と、IoTなど発展させるべき項目に分け、説明がなされていた。 ・前回指摘事項(要望、助言)に対して適切な対応がされていた。 ・IoTは企業ごとに設備投資と企業内システム要員が必要で、中小企業にとってはハードルが高い。工技センターという基礎技術の支援が主である機関からは少し遠い部分もあるが、どのような支援ができるか検討してほしい。 ・適切に対応している。 					

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要
② 全面的見直しが必要

総合評価

評価点数 ⑤ 0人 ④ 6人 ③ 0人 ② 0人 ① 0人

- ・岡山県の中長期政策プランを反映しての運営方針、行動計画は妥当なものである。特に外部機関と協調しての活動が評価される。また、人員や組織の最適化、設備の効果的な配置や利用、成果発信、アウトカムについては、高い成果を上げているといえる。今後は、活動を維持していくための方針についての議論も期待したい。
- ・学位取得率が高く、学会での受賞も多いことから、研究者の能力は非常に高いと思われる。依頼試験・設備利用・技術相談の件数も非常に多く、技術移転も継続的に行われており、地域企業に対する支援や研究成果の還元も活発に行われている。
- ・一般財源の減少を民間資金や競争資金で補填している形になっているが、外部資金の増加に合わせて一般財源からの研究費を減らしては、外部資金獲得の意欲が薄れる。一定額以上の外部資金を取得した場合、一般財源と併せた研究費総額が増えるようにすると、獲得意欲がわくのではないか。
- ・技術相談が集中した平成30年豪雨時には、研究発表に時間が取れない状況が見えた。また、外部資金獲得には、さらに時間がかかることが予測されることから、装置の使用法の説明や申請書作成などOBや非常勤で委託できそうな仕事を臨時雇用で賄えないか。
- ・運営予算に関して、今後、特電補助金が継続されない事が発生した場合の岡山県の予算面での対応が気になる。
- ・民間企業において、研究の結果を活用する場合、その技術の採算性にも注目するため、コストの面にも注意を払い、研究発表をしてほしい。
- ・業務の目的が企業の支援と明示されており、今後も運営方針に従った活動を期待する。
- ・少ない研究費の中で努力と工夫により、県内企業の振興へ貢献していることに感謝する。
- ・コロナ禍と米中対立の大きな変化の中で従来のグローバリズム（全世界からの最安値調達）が見直される公算が大きい。岡山県は国内トップレベルの産業・企業が多数あるユニークな特徴を有するが、人材に乏しい問題がある。それら企業を技術面で下支えする活動は貴重であり、もっと大きく評価されることが望ましい。その面からも研究予算の確保・拡充に一層の尽力をしてほしい。
- ・全般に亘り適切な運営がなされており、優れている（標準以上）と評価致します。
- ・優れた活動実態を今以上に広く周知し、工業技術センターの益々のプレゼンスの向上を図ってほしい。

評価点数 ⑤非常に優れている ④優れている ③妥当 ②見直しが必要
① 全面的見直しが必要